

重要文化財で幽玄の世界



▲篠笛奏者の狩野泰一さんが、新潟初公開「幸鳥」を演奏



▲和太鼓奏者の金子竜太郎さんが、チャッパ（日本の小型シンバル）を披露

4月4日、5日の2日間にわたり「渡邊邸 世紀の大修復完成記念公演」と題し、篠笛と和太鼓の調べ「春の響」が開催されました。4日は、改修を終えたばかりの渡邊邸を会場に行われ、会場は約370人の来場者でいっぱい。主催をした渡邊家保存会と音屋楽市楽座（田村優子代表・平内新）のみなさんが1年半前から計画をしてきたイベントで、渡邊邸大修復完成に花を添えました。

盛大にイベントを終えて

音屋楽市楽座 代表 田村優子



▲お礼のあいさつをする田村代表

まず始めに、渡邊邸修復完成記念公演にご協力いただきました方々に深く感謝申し上げます。そして公演にお越しくださりましたお客様に心よりお礼申し上げます。

この公演を企画したのは、一昨年の10月のことでした。MATSUBURIサミットで村中が盛りあがった2日間。あのイベント準備の中でヒラメキました。その時は、私たった一人の思いでしかありませんでした。でも、たくさんの方に私の思いを聞いてもらい、そしてたくさん仲間が集まりチームが誕生しました。かけがえのない同志たちに支えられ、励まされ、全身全霊で挑んだ1年間。本当にかげがえのない日々です。公演の2日間、スタッフのみんながキラキラと輝いていました。そして、無事に終えられたことに、深く心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。



影絵芝居で大里峠大蛇伝説を語る「いなかなかないなプロジェクトチーム」の近美千代さん(幾地)：写真右



春の響

～ 篠笛と和太鼓の調べ～

▶ ゲスト出演の田村佑介さんと
3人による演奏



4月4日は、春の肌寒さを感じられる日でしたが、天候には恵まれ、開演前から渡邊邸の前には、長蛇の列ができていました。村内外から多くの来場者があり、優雅なひとときを楽しんでいました。この日は、イベントに合わせた臨時列車が運行され、着物姿で訪れた人たちや庭園内に出店されたカクテルブースでお酒を楽しむ姿など、普段は見られない庭園内の様子となりました。



▲満席の会場

使った影絵もおもしろかった」と公演に大満足の様子。その後も邸内に飾られたお雛様を見に行くなど満喫していました。

また、翌5日には、村民会館アリーナで地元グループとプロの演奏による大盆踊り大会が行われ、約500人が参加。大盛況となりました。

実行委員会では、これからも一年間を通してイベントを計画し、周辺施設などと連携を図り、盛り上げていきたいと意気込んでいます。



公演の終わりには、実行委員会メンバーから出演者のみなさんに、有機栽培の関川村産コシヒカリがプレゼントされました。

